allcinema

ドイツ零年（1948）

GERMANIA ANNO ZERO
GERMANY YEAR ZERO［米］

メディア 映画
ジャンル ドラマ　戦争
製作国 イタリア
色彩 B&W
時間 75分
初公開日 1952/06/07
公開情報 イタリフィルム＝松竹洋画部

【解説】
戦後のネオ・レアリスモ紹介の気運に乗って、本作も製作後まもなく日本でも公開されたが、その時には正当な評価を受けずじまいで、大戦に対する歴史観がしっかと形成されてきた近年のリバイバルで、ロッセリーニの前衛ぶりはようやく理解された。第三帝国滅亡後、廃墟となったベルリンを徘徊する１３歳の少年エドムンドは、間借りの部屋に病身の父と、身を売って生計を立てる姉と共に暮らし、自分もいくらかの足しにと小銭稼ぎをしていた。軍隊にいた兄が帰還するが、ナチ党員であったことを表沙汰にするのを恐れ、閉じこもってばかりいる。ある日、小学校時代の恩師に会うが、彼は旧軍人の家に寄生虫のように住みつき、未だナチの弱肉強食の理論を振りかざし、エドムンドに父親の毒殺を示唆する。少年はそれを実行してしまうが……。たぶんにセンセーショナルな主題を冷徹なタッチで表現。父殺しの場面のスリル。その後、少年が絶望の町を彷徨するシークェンスの空間把握。やるせない孤独感が観る者を胸をえぐる。

【クレジット】

監督	ロベルト・ロッセリーニ	Roberto Rossellini
製作	ロベルト・ロッセリーニ	Roberto Rossellini
脚本	ロベルト・ロッセリーニ	Roberto Rossellini
	カルロ・リッツァーニ	Carlo Lizzani
	マックス・コルペ	Max Kolpé
撮影	ロベール・ジュイヤール	Robert Juillard
音楽	レンツォ・ロッセリーニ	Renzo Rossellini
出演	エドムント・メシュケ	Edmund Moeschke
	エルンスト・ピットシャウ	Ernst Pittschau
	バーバラ・ヒンツ	Barbara Hintz

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.